



ルーイエナ、固い絆で訪問交流

フィンランド、ドイツでスキー合宿、省エネ取り組みの視察も

2008（平成20）年の姉妹都市提携以来、毎年相互にお互いの町を交流訪問してきたラトビア・ルーイエナ町との交流で、東川町から2班20人が同町を訪問しました。今回の訪問団は、途中フィンランド、ドイツ、オーストリアも歴訪。スキー合宿、自然エネルギー導入の先進地視察を行いました。そのうちA班の様子を写真で紹介します。

ルーイエナ町への訪問は、町議会議員9人、町職員ら11人の合計20人。A、B2班に分かれ、7月8日から同21日までの14日間の間に、約10日間ずつフィンランド、ドイツ、オーストリア、ラトビアを歴訪しました。

A班10人は、ルーイエナ公式訪問に加えて、スキートレーニングのメッカ、ボカッティ（フィンランド）、オーバーホフスキー場（ドイツ・チューリンゲン州）、省エネ研究のダルムシュタット工科大学（ドイツ・ダルムシュタット市）を訪れました。

ボカッティ、オーバーホフの両施設はともにスキー（クロスカントリー）の本格的な合宿地。整った宿舎群と食事、科学的トレーニング、通年練習可能な大規模スキートンネル施設などを備え、日本の強豪企業、大学チームが毎年のように長期強化トレーニングに訪れています。

ダルムシュタット工科大学は、省エネルギー、エコタウン研究に取り組んでおり、その一環の実験住宅、エネルギーゼ口住宅を見学しました。ラトビア国内では、ごみ焼却発電プラントを運用しているザオ・ダイベ社（リガ市）、生ごみのバイオエネルギープラント（リンバツ市）を見学しました。



グンティス町長のコテージで歓迎会（7月14日）



マダルス議員宅での交流ガーデンパーティー（7月15日）



グンティス町長から町の概要説明を受けました（7月15日）



ルーイエナ町関係者らの歓迎を受けました（7月15日、ルーイエナ町庁舎前）